

# 指導力不足教員の研修プログラムについて

指導主事 清水 俊也

Shimizu Toshiya

## 要 旨

指導力不足教員は、学習指導、学級経営、生徒指導等、また教員としての適格性や情緒的な不安定さなど、様々な課題を抱えている。各個人の課題の克服に向け、好ましい人間関係を構築したり、幅広い知見を身に付けさせたりするなどの総合的な領域にわたる研修プログラムを考えた。

キーワード： 指導力不足教員、研修プログラム

## 1 はじめに

近年、社会は急激に変化し、都市化、少子化、情報化、核家族化、遊び環境の変化等の中、児童生徒をめぐる課題が山積し、その解決のため、学校・家庭・社会が一体となって取り組む必要がクローズアップされている。その中でも児童生徒の人間形成にかかわって、教員の果たす役割は大きい。ほとんどの教員は、教育の専門家としての使命感をもって児童生徒と向き合いながら、日々懸命に教育活動に取り組んでいる。

しかし一方で、何らかの理由で適切な指導ができず、児童生徒や保護者・地域社会からの信頼を失っている教員がいることも事実である。いわゆる、「指導力不足教員」と呼ばれる教員である。

指導力不足教員が生み出された原因には様々なものがあり、本人の責にのみ帰することが必ずしも適当でない場合もある。本来、教育者としての夢と情熱をもって教員としての道を選んだはずである。そうした教員が指導に課題を有するに至った原因を十分に分析し、職場復帰を目指すための研修プログラムについて考察した。

## 2 研究目的

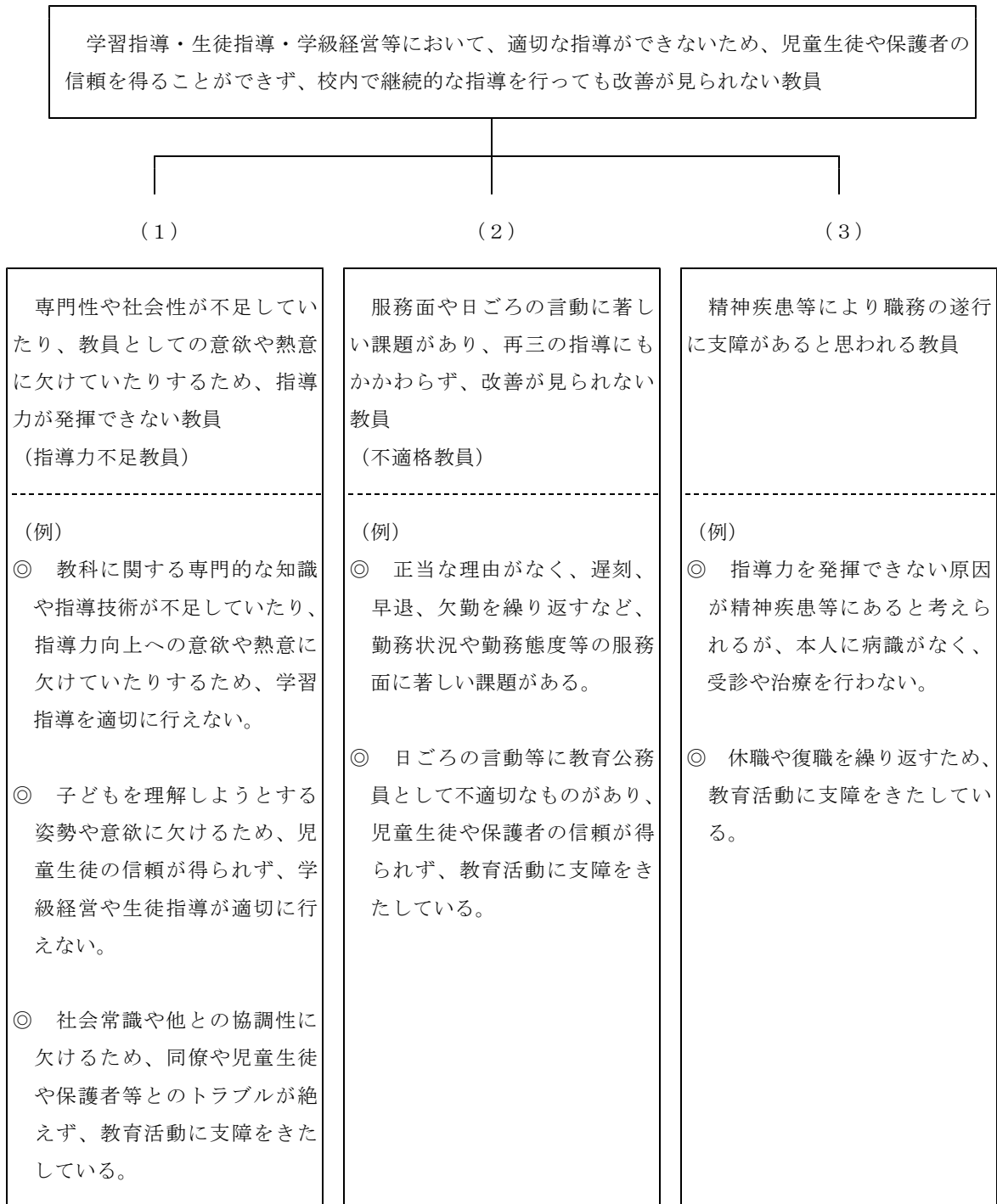
指導力不足教員の研修（以下、「特別研修」という。）として、人間関係づくり、学習指導、生徒指導、児童生徒理解等の力の向上に向けて、より効果的な研修内容や研修方法を明らかにする。

## 3 研究方法

- (1) 指導力不足教員の特別研修プログラムについて考察する
- (2) 先進県の取組の収集と分析

## 4 研究内容

### (1) 本県における指導力不足教員等の定義



(指導力不足教員等への対応の在り方について 最終報告)

「指導力不足教員」「不適格教員」「精神疾患等により、職務の遂行に支障があると思われる教員」という分類は、対応策を検討するために整理したものである。実際の指導力不足教員等の個々のケースでは、これらの要素が複合している場合や、潜在化している場合があり、それぞれの事例について、十分な分析を行った上で、その対応策等を検討することが必要である。

(2) 本県における特別研修プログラムの概要

特別研修プログラムを考える時、基礎的素養、学級経営、学習指導、生徒指導、事務処理能力等の、教員として不可欠な資質を身に付けるために行う共通研修と、指導力不足教員が抱えている個々の課題克服のための個別研修が必要になってくる。ここでは、共通プログラムについて考えてみた。

指導力向上特別研修共通プログラム

基礎的素養

研修項目	研修内容	研修目標
公教育と使命	・公教育の使命を果たす教員	・教育公務員としての責務や行動規範に基づき行動できる。
学校教育の現状	・学校教育の改善、充実	・児童生徒の学習や生活の状況を分析し、生きる力を育むための方策について理解する。
学習指導要領	・学習指導要領の趣旨、ねらい	・学習指導要領の趣旨、ねらいを理解する。
サービス、義務	・教育職員の身分と使命 ・教員としての心構え ・保護者や地域との連携	・地公法や教特法の法制の目的や意義を理解し、教育公務員としての行動規範等を身に付ける。 ・先輩教員や管理職の指導や助言の生かし方等、教職員間の人間関係づくりができる。 ・児童生徒や保護者、地域の実態、学校教育への期待等を把握し、適切に対応できる。 ・組織のねらいや意義などを理解する。
・人権教育	・人権教育の実践的課題	・我が国の人権課題と学校における人権教育の基本的理念及び指導上の課題等について理解を深める。
・校務分掌とその機能	・校内組織の在り方	・校務分掌が学校教育目標達成のための組織であることと、協働していく重要性を理解する。

学級経営

研修項目	研修内容	研修目標
学級経営の内容と果たす役割	・学級経営の理解	・学級経営の内容とその重要性を理解し、学級の実態に即し、自分の持ち味を生かして、積極的によりよい経営に努めることができる。
学級の組織づくり	・当番、係活動（清掃、給食、学習、日直等）の組織づくり	・学級目標の達成を目指し、児童生徒に役割を分担し、生活や学習集団を組織編成するとともに、それらの組織が効果的に機能するように努めることができる。
保護者との連携	・家庭訪問、個人面談、個別の相談などの体系的な行い方	・保護者の話をよく聞き、信頼関係を築くとともに、児童生徒のよりよい育成を目指す立場を意識しながら、個々の家庭や児童の状況に即して適切に助言できる。
学級通信	・学級通信の果たす役割とその効果	・学級通信の役割や効果、作成上の配慮事項などを理解し、保護者の理解と協力が得られるよう、よりよい学級経営に生かす学級通信を作成できる。

学習指導

研修項目	研修内容	研修目標
学習指導の基礎技術（その1）	・児童生徒理解に関する技術	・児童生徒の実態把握の仕方について理解する。 ・効果的な学習指導を行うための教師の視線や教室内で立つ位置などについて工夫できる。
学習指導の基礎技術（その2）	・話し方に関する技術	・児童生徒の興味・関心のひく話し方ができる。 ・声の抑揚や大小などに気を付けて、指導内容がはっきりと伝わるように話すことができる。

研修項目	研修内容	研修目標
授業実践に関する技術 (その1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問の仕方</li> <li>話し方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の多様な意見を引き出す発問の仕方を工夫できる。</li> <li>説明や解説、発問、意欲の喚起等について、話し方のコツを学び、授業中の実践につなげることができる。</li> </ul>
授業実践に関する技術 (その2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>板書の工夫</li> <li>資料の活用</li> <li>ノートのとらせ方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1時間の授業の流れや本時のねらい、重点事項、まとめが分かるように板書することができる。</li> <li>掲示資料や配付資料の内容や掲示方法を学び、効果的に資料を活用できる。</li> <li>ノート点検において、児童生徒の意欲を喚起するコメント等の書き方や評価の仕方を身に付ける。</li> </ul>
学習指導案の作成 (その1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導案の作成の仕方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の特性やねらいと児童生徒の実態を関連させた指導目標を立てることができる。</li> <li>単元の構成や学習課程の構成を工夫できる。</li> <li>単元や各自の目標に応じた評価の視点をもって授業を展開できる。</li> </ul>
学習指導案の作成 (その2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導に基づく細案の立て方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問や板書、予想される児童生徒の反応などを視野に入れた学習指導細案を作成できる。</li> </ul>
学習指導案の作成 (その3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究の方法と実際</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の特性と児童生徒の関心とを効果的に関連付けて教材化できる。</li> <li>教材の特性を踏まえ、単元構成や学習課程、評価の在り方を工夫し、学習指導案を作成できる。</li> <li>教材の系統性や組み立てを踏まえた教材研究の方法を身に付ける。</li> </ul>
テストの作成と評価の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>テストの作成と評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容が網羅されたテストの作成や構成、実施結果の処理方法を身に付ける。</li> </ul>
学習指導と評価の要点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育評価の在り方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導と評価の一体化について理解する。</li> <li>様々な評価方法を、児童生徒の学習の方法に基づいて活用する技術を身に付ける。</li> </ul>

#### 生徒指導

研修項目	研修内容	研修目標
生徒指導の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導をめぐる状況と今日的課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導が今日抱えている課題や状況について理解する。</li> </ul>
児童生徒理解の内容と方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒観・人間観</li> <li>診断的理解と共感的理解</li> <li>児童生徒理解に結び付く生徒指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒観、人間観を探究し、児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付ける。</li> <li>共感的理解の大切さについて理解を深め、その技術を身に付ける。</li> <li>社会の変化を踏まえ、児童生徒像を明確にすることができる。</li> </ul>
問題行動に等に関する事例研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、学級内における問題行動等の指導の在り方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ、暴力行為、不登校や中途退学などの生徒指導上の諸問題について、事例等を基に議論を重ねながら問題行動等への対応の方策を理解する。</li> </ul>
教育相談の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングの基礎技術</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共感的理解や傾聴等について理解し、カウンセリングの基礎知識や基礎技術を身に付ける。</li> </ul>

#### 事務処理

研修項目	研修内容	研修目標
事務処理の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級事務の内容と留意事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級事務の内容や留意事項を理解し、適切に処理できる。</li> <li>コンピュータの基本的な操作ができる。</li> </ul>

## 5 研究結果と考察

学習指導、学級経営、生徒指導やコミュニケーション能力の不足など、様々な課題や問題が複合的に絡み合っている指導力不足教員に対して、現場復帰を前提とした研修プログラムを計画実施している。研修プログラムの計画に当たっては、指導力不足教員が共通して受講する『共通プログラム』と、それぞれ各個人の課題克服のための『個別プログラム』の計画が必要と考える。本研究では『共通プログラム』について研究した。

指導力不足教員は個別に課題を有しているものの、同時に程度の違いはあっても、教員としての基礎的・基本的な一定の資質が不足しているということも否めない。そのために、共通プログラムでは基礎的素養、学級経営、学習指導、生徒指導、事務処理の5項目を設定し研修を計画した。

基礎的素養では、学校教育の現状や教員としての服務や義務、使命感等の基礎的、基本的な素養の習得を目指した研修を講義形式で行う。

学級経営では、児童生徒とのかかわり方や学級の組織づくり等、生活や学習集団の基礎となる学級組織が効果的に機能するような方策について研修する。また、保護者との連携の方法や個々の家庭や児童生徒の状況に即して適切に助言等が行えることができ、保護者との信頼関係を構築するための研修も行う。また、学級通信の役割や効果、作成上の配慮事項等を理解し、保護者の理解と協力が得られるような学級通信を制作する。

学習指導では、児童生徒の学習に関する実態把握の仕方についての理解から、テストの作成から評価の在り方に至るまで細部にわたり研修を行う。特に、授業実践に関する研修では、発問の仕方や授業の進め方等を模擬授業を通じて集中的に研修する。教員である限り、授業を児童生徒に分かりやすく行うことが最低条件であり、特別研修の最大の目的でもある。

生徒指導では、今日の生徒指導に関する状況や課題を理解し、いじめや不登校、暴力行為等の諸問題について事例等を基に議論を重ねながら、問題行動等に対する方策を理解する。また、教育相談の基本である、共感的理解や傾聴等の基本技術を身に付ける。

事務処理では、年度当初の学級事務の内容、成績等の諸表簿、学期末や年度末の学級事務の内容等を理解し、決められた期限内に適切に処理できるための研修を行う。

上記以外にも、指導力不足教員に共通して必要なものとして、コミュニケーション能力の向上と人間関係づくりがある。それらが学習指導を行う上での大きな課題になっていることが多く、特別研修プログラムでは年間を通じて他の者との会話を円滑に行うための研修を行う。

特別研修を開始するに当たり、指導力不足教員に研修理由や課題を明確に伝え、本人がその課題を十分に認識すれば、研修成果が著しく現れる。様々な要因が複合的に絡み合っている場合が多く、共通プログラムと並行して個々の課題に応じた個別プログラムも必要である。

一方、指導力不足教員に対する研修プログラムを考える前に、指導力不足教員を出さない取組が重要である。指導力不足と呼ばれる教員は、教える内容についての知識が量的に不足しているとか、その知識を教える指導技術が低いとは限らず、教える意欲や情熱、探究心を低下させている場合が多い。また、新鮮な感受性を失っていたり、児童生徒とかわることに意欲や喜びを見いだせなくなっていたりする。このような教員の場合、その指導力に関して、どのような内容がどの程度不足

しているのか、本人が十分に認識できていない場合が多い。こうした教員の実践を観察、記録し、指導力の何が問題なのか、何が不足しているのかを的確に見抜くことができ、問題の解消や指導力の向上につながる示唆や方向性を指導できる管理職や同僚教員の存在が不可欠である。

また、校長は指導力に問題があると認められる教員に対する指導方針を明確にし、そうした教員に対応するために必要な指導体制を組み、学期ごとに指導の状況、その結果について点検・評価する必要がある。

## 6 今後の課題

指導力不足教員の中には、何らかの精神的ストレスによる「心の病」をもった教員もいる。そのために、本来の力が発揮できず、学習指導等に問題や課題が現れている場合がある。それらの問題を解決するためには、臨床心理士等の専門家によるカウンセリングが必要であると考えるが、現在のところそこまでは至っていないのが現状である。今後、定期的な専門家によるカウンセリング体制を整える必要がある。また、所属校を含めた関係諸機関の全面的な協力体制が、特別研修の効果をあげる上にも不可欠であると考える。

## 参考・引用文献

(1) 八尾坂修 「指導力不足教員」 読本

教育開発研究所 2001